



公益
社団法人 京都府放射線技師会

京放技ニュース

9 / 2017
(通算 688 号)

発行：(公社)京都府放射線技師会 TEL&FAX 075-802-0082 E-mail:kyohogi @ mbox.kyoto-inet.or.jp
ホームページアドレス <http://www/kyohogi.jp/>

〒604-8472 京都市中京区西ノ京北壺井町 88-1 二条プラザ

振込郵便口座 01070-3-11019

ゆうちょ銀行 店名(店番) 109 当座 0011019 シャ)キョウトフホウシャセンギシカイ

コミュニケーションと教育

公益社団法人京都府放射線技師会副会長 原口 隆志

現在、技術革新・デジタル化が進み私たち診療放射線技師の専門技術についても大きく変革してきているのは当然ご存知のことかと思われる。ただ、この機器の発達に伴って現場の技師自身も非常に高度に発展しているのに他の職種からの認識はあまりされていないようにも思うのは私だけでしょうか、ともかく著しく環境が変化してきているのは確実である。

ただ、それだけでなく社会環境・医療環境についても大きく変化してきており、先に述べた技術的なことのみならず、「サービス」、「医療安全」などの要求も高まってきており専門技術に加え安心で安全で思いやりのある対応が必要となってきた。その中で職員間のコミュニケーションについては非常に重要なファクターといえ、コミュニケーションスキルを身に付け磨く必要がある。それによってさまざまな業務の円滑化が進み、ひいては患者の安心、安全、信頼につながるものだといえる。また、他職種の職員にもわれわれが行なっている業務に対しても理解が深まると思われる。そうして相互コミュニケーションを組織として取り組むことによって職場環境の改善にもつながるものと思われる。

現場におけるコミュニケーションスキルの向上の教育において、撮影技術や医療知識を磨くとともに対象者が人間であることで様々な体調や感情をくみ取り、行動や表情に注意を払いながら対応し、状況判断を行いその中でコミュニケーションを実践し、チーム医療につなげていけるようにする必要がある。多くが普通に検査し、普通に終わるのが当たり前ようになってきた現在の医療では、事故につながるリスクを回避するためにもコミュニケーションスキルを向上していくことが大事である。

また、現場を見回すと「教育」として新人が対象となることが多いかと思うが、経験のある先輩技師達をよく見てみるとその人たちもスキル向上が必要であると感じるときがある。

そこで現場での「教育」において、先輩が後輩に教えながら様々なところでコミュニケーションをとり、それぞれがスキルを向上し、円滑に安全・安心の医療を提供出来るようにしていくことが理想で、結果として双方における人材育成といえ、職場環境も良くなるのではないのでしょうか。

私はたまたま幾つかの職場を経験したが、場所によってはまだまだ閉鎖的で、自分たちの仕事をこなささえしたら良い、他は知らん、とゆうような考えがまだあるように思われる。本当の意味でのチーム医療の一員となるためにもコミュニケーションスキルの向上は不可欠であり、多くの会員が職場における人材育成での教育を進めることで、業務の潤滑化がすすみ、安心・安全で患者から求められる医療人となるよう期待しているところである。

第 566 回研修会報告

学術委員・洛和会音羽病院 片山 雅人

7月2日(日)にホテルセントノーム京都にて第566回研修会を開催いたしました。参加者は48名で、メーカーからの講演1題と診療放射線技師からの発表1題の計2題の発表が行われました。

メーカーからは、株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパンの早坂和人先生から「Dual Energy CT から Spectral CT へ」、診療放射線技師からは会員の京都府立医科大学付属病院の丹後賢二先生から「当院における心臓 CT 撮影法と画像処理」について発表頂きました。

Dual Energy CT から Spectral CT へ

株式会社フィリップスエレクトロニクスジャパン

DI Business Group, CT Modality Specialist 早坂 和人 先生

最新の技術である Dual Energy CT の原理と利点についてと臨床での使用例、今後の CT の方向性である Spectral CT の可能性についてお話し頂きました。

Dual Energy は、2つの異なるエネルギー画像を取得することにより、物質の弁別などが行える利点がある。フィリップスの Dual Energy の機構は、2つの材質の異なる検出器を上下に配置する事により、特別な設定や Protocol (検査手順) の変更無しに、いつでも Dual Energy のデータを取得する特徴がある。

この物質の弁別機能を用いる事により以下の様な臨床上の有用性がある。1.通常画像では判別が困難な腫瘍への造影剤の取り込み→腫瘍の判別能の向上。2.肺への造影剤の取り込み→微小肺塞栓の検出。3.プラークの性状判断→不安定と安定プラークの判別。4.低エネルギー画像を表示→造影剤を強調した画像。

临床上、問題となる画像処理やデータの保存にも力を入れている。Plug-In 機能などを用いる事により、電子カルテや PACS (画像サーバー) などからも seamless に画像の確認や処理が行える機能を取り入れており、Dual Energy のデータも1つのフォルダーに格納されており、いつでも access 可能である。

実際の機器にも搭載されているが、今後の方向性として2つの異なるエネルギーを使用することにより、今までは困難であった原子番号(実効原子番号)の違いを波形を用いて判別する事も可能になっている。この波形データも画像上に表示する機能もある。



当院における心臓 CT 撮影法と画像処理

京都府立医科大学付属病院 丹後 賢二 先生

京都府立医科大学付属病院で行われている心臓 CT 検査に関して、小児領域、成人領域についてお話し頂きました。

成人領域では実際に病院で行われている検査 Protocol の紹介、画像処理の仕方を分かりやすく解説頂きました。

検査 Protocol は、1.ニトログリセリンスプレー舌下、2.ランジオロール塩酸塩、3.造影剤のテストインジェクションの実施、4.冠動脈撮影の流れで行われている。症例としては、通常の冠動脈疾患、冠動脈バイパス術、心房中隔欠損、TAVI (経カテーテル大動脈弁留置術)。冠動脈を目



的とした症例では、血管 CPR/stretch-View,Angio-View,VRT (立体画像) などの画像を作成されている。心房中隔欠損を目的にした症例では、右房と左房が造影されるタイミングが必要であるため、肺静脈と大動脈に ROI を設定したテストインジェクションを行っている。TAVI を目的にした症例では、ワークステーションを使用して、術前プランニングを想定した大動脈弁の抽出を行っている。

小児の心臓疾患を扱う病院の特徴から、小児領域の心臓 CT も多く行っている。小児領域で多い ASD (心房中隔欠損)、VSD (心室中隔欠損) などの疾患は、造影剤の注入終了後から撮影を開始している。求められる画像は、SVC (上大静脈)、Ao (大動脈)、PA (肺動脈) など表示する必要があるため、部位毎に色調を変えて組み合わせた VRT 画像を作成されている。

今回の内容は、小児の心臓疾患を扱わない施設では、経験しない症例に関しても病態を交えて、Protocol をご説明頂きました。

平成 29 年度全地区委員会報告

組織調査委員会・京都第二赤十字病院 山本 祐造

7月2日(日)午後2時よりホテルセントノーム京都 平安の間にて、平成 29 年度全地区委員会が開催されました。参加者は三役及び常務理事 12 名、地区理事 7 名、監事 1 名、地区委員 15 名、組織調査委員 4 名の計 39 名でした。

蒲組織調査理事の司会により開会した。

まず久保田副会長より日本診療放射線技師会定時総会及び前日に行われた日本診療放射線技師会創立 70 周年の記念式典の報告が行われた。

総会では、①統一講習会について、②指定規則について、③教育の在り方についての説明がなされた。3 年間の審議を経て技師の業務拡大が一部認められたが、まだまだ積み残した問題もあり、検討中である。そして技師学校養成所指定規則について、臨床実習の単位も含め 102 単位として厚生労働省へ提出する予定であること。また 4 年制+2 年の教育の検討も行っていると報告された。

次に原口副会長より業務拡大による統一講習会について教育と受講状況の報告があった。平成 28 年度の全国受講者数は 5,154 名(京都府 145 名)。法令上において講習会の受講は義務付けられていないが、診療放射線技師の業務における地位向上、未来を切り開くため、そして何よりも医療安全上の確保の観点から受講する必要があると言われていたので周りの技師にも受講を勧めて欲しいと強く要望される。

そして松元組織調査委員より MRI 検査における安全管理のアンケート結果の報告があった。どの施設でも金属類の持ち込み事故(未遂も含む)はあり、目に見えないものにも含まれており事故は尽きません。吸着事故例やエラー画像も紹介され、医療従事者の安全管理の教育の必要性を感じた。今後、この情報を京都府放射線技師会で管理し情報共有の場として活用していきたいと考えます。

全地区委員会は、地区委員と執行部が直接意見や要望を話す機会を持ち、技師会を知ることのできる貴重な会合です。些細な意見や要望でもございましたら地区委員や地区理事を通じて、または事務所にメールでも結構です。執行部に知らせて頂くことが技師会活動の活性化につながりますので、今後とも技師会活動にご協力をお願いします。



診療放射線技師のためのフレッシューズセミナー報告

学術委員長 後藤 正

平成 29 年 7 月 2 日(日)に京都駅前のホテルセントノーム京都にてフレッシューズセミナーを開催しました。参加者は 33 名で、今年も多くフレッシュ技師にご参加いただきました。

以下にプログラム内容を記します。セミナー内容については日本診療放射線技師会より配布された学習目標、スライドをもとに学術委員会でアレンジしたものです。すっかり夏の恒例行事となり、参加者も年々増えております。新入職の技師がほとんどであり、皆非常に熱心に受講されておりました。どの講義も新入職者、診療放射線技師に必要な不可欠なものであり、充実した研修であった。講師としてご協力いただいたスタッフ、学術委員の皆様ご苦労様でした。

- ・医療安全講座 片山 雅人 (洛和会音羽病院)
- ・感染対策講座 四丸 真俊 (NHO 宇多野病院)
- ・エチケットマナー講座 丸山 久喜 (向日回生病院)
- ・胸部撮影基礎講座 後藤 正 (済生会京都府病院)

フレッシュ診療放射線技師の集い報告

厚生委員会 塩貝 光司

7 月 2 日(日) ホテルセントノーム京都にて 18 時より「フレッシュ診療放射線技師の集い」を開催し、フレッシュ技師 30 名、一般会員 37 名、計 67 名に参加いただきました。

河本会長の開会の挨拶の後、轟監事からの乾杯の御発声では「技師会に入った後のメリットは自分で作るものです」という激励の言葉をいただきフレッシュ技師達の心に響いたのではないのでしょうか。



参加者が和やかな雰囲気の中で情報交換を交わす中、毎年恒例になっているフレッシュ技師の自己紹介を今年も行いました。各々の個性あふれるスピーチに加え原口副会長のユニークな演出に会場はさらに和やかな空気に包まれました。

フレッシュ技師の方々は日々の業務に対する 1 年ないし 2 年目が故の悩みや不安等を共有でき貴重な情報交換ができていたように思えました。楽しい時間が過ぎるのは早いもので 20 時に久保田副会長の挨拶をもって閉会となりました。閉会の後も余韻に浸る参加者の姿も見られ有意義な会であったと感じております。フレッシュ診療放射線技師の集いは幅広い年齢層の技師が参加し他施設とのネットワークを広げる貴重な会の一つです。この会を含めた技師会が開催する交流会にも足を運んでいただき情報交換の場として活用いただければ幸いです。

次回以降もたくさんのフレッシュ技師、一般会員の皆様にご参加いただきフレッシュ診療放射線技師の集いがより活気を帯びていくことを期待しております。

日曜日開催にも関わらずたくさんの方々に参加していただきありがとうございました。

診療放射線技師基礎技術講習会「X線 CT 検査」のお知らせ

日時：平成 29 年 10 月 29 日(日) 9:30 ~ 17:50

場所：京都府立医科大学看護学舎 1 階大講義室および実習室
〒602-0857 京都府京都市上京区中御霊町 410
TEL: 075-251-5111 (大学代表)

募集人数：100 人 (JART ホームページ 情報システムより)

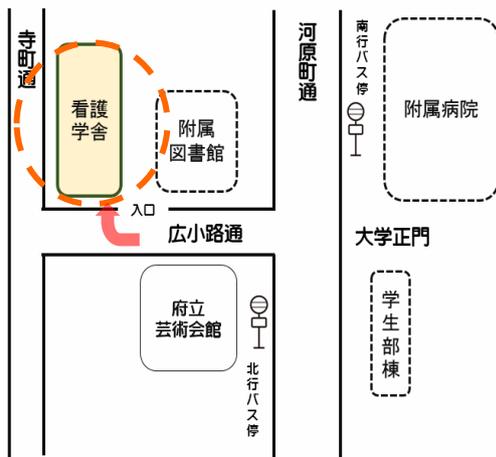
参加費：会員 3,000 円、会員外 10,000 円

【講習会内容】

新人からベテランまで、CT 検査に関して診療放射線技師に必要な基礎知識の再確認を行うための講習会です。

【プログラム】

9:30~10:15	CT 装置	牛尾 哲敏	滋賀医科大学附属病院
10:15~11:00	画像再構成法	牛尾 哲敏	滋賀医科大学附属病院
11:15~12:00	画像表示処理	中村 道宏	市立奈良病院
12:00~13:00	昼食		
13:00~13:45	画質・性能評価・線量特性 1	前田 勝彦	兵庫医科大学病院
13:45~14:30	画質・性能評価・線量特性 2	前田 勝彦	兵庫医科大学病院
14:45~15:30	撮影技術 1 (基本的撮影法 1)	船戸 泰希	国保中央病院
15:30~16:15	撮影技術 2 (基本的撮影法 2)	宮西 忠史	天理よろづ相談所病院
16:25~17:10	撮影技術 3 (基本的撮影法 3)	後藤 正	済生会京都府病院
17:20~17:50	確認テスト		
17:50~	終了式		



編集後記

京放技では毎年夏に一泊の研修会を開催しているのを皆さまご存知でしょうか。この研修会は京都府北部の両丹地区という集まりの技師会員が開催しているのですが、福知山、綾部、舞鶴、丹後半島という皆様はどういった印象をお持ちでしょうか。観光地？田舎？そう思う方も多数いらっしゃると思いますが、実は、診療放射線技師としてはかなりの精鋭ぞろいです。確かに人口密度が低いので診療放射線技師の数も少ないのですが、その少ない技師の中には北米放射線学会で発表した方もいれば、多くの認定を取得している方も多数在籍しています。その精鋭たちが開催する研修会が「両丹地区夏季研修会」です。この会報誌が発刊されているときには今年度の夏季研修会は終了してしましますが、年に合計 4 回の研修会（春・夏・秋・冬）を開催しています。次回は秋の開催を近々ご案内します。どうか皆さま、ご都合をつけて参加されてはいかがでしょうか。技師としてのやる気と団結力を感じることができると思います。編集委員会 中島 智也

事務所休止のお知らせ

9 月 21 (木) ~24 日(日) の間は事務所を閉鎖させていただきます。
お問い合わせ等は e メールでお願いいたします。

求人のお知らせ

京都市で 4 月採用予定の病院があります。
詳しくは京都府放射線技師会事務所までお問い合わせください。

▶ 9 月以降の京放技活動

10 月 7・8 日	業務拡大に伴う統一講習会	京都府立医科大学看護学舎
10 月 15 日(日)	近畿地域診療放射線技師会野球大会	山城総合運動公園
10 月 29 日(日)	基礎技術講習会「X 線 CT 検査」	京都府立医科大学看護学舎
10 月 29 日(日)	第 44 回くらしと健康展	京都府医師会館

▶ 9 月以降の京都府以外での近隣講習会

9 月 10・17 日	業務拡大に伴う統一講習会	神戸大学医学部附属病院
10 月 14・15 日	業務拡大に伴う統一講習会	兵庫県立加古川医療センター
11 月 3・4 日	業務拡大に伴う統一講習会	草津総合病院 (予定)
12 月 2・3 日	業務拡大に伴う統一講習会	CIVI 北梅田研修センター・済生会中津病院